

第5回小田原城天守閣耐震改修等検討委員会議事録

- ◆ 日 時 平成24年3月15日(木) 午前10時00分から12時00分まで
- ◆ 場 所 小田原市郷土文化館会議室
- ◆ 出席者 22名(委員:6名、事務局:8名、オブザーバー:8名)
 - <委員> 榎谷委員長、小出委員、鳥居委員、西委員、矢島委員、飯沼委員
 - <事務局> 山崎経済部長、長谷川経済部副部長、宮坂経済部管理監、杉本観光課長、
穂坂観光課城址公園担当副課長、諏訪間専門監、二見城址公園係長、横井主査
 - <オブザーバー> 神奈川県教育委員会文化遺産課 谷口副主幹
文化財保存計画協会 矢野代表、赤澤主任研究員、崔技術員
大島文化財課副課長、栢沼企画政策課係長、戸倉建築指導課審査係長
飯澤建築課施設計画係長
- ◆ 欠席者 2名(後藤副委員長、石川委員)
- ◆ 傍聴者 6名
- ◆ 次 第
 - 1 議題
 - (1) 小田原城天守閣耐震改修等検討委員会報告書について
 - (2) その他
- ◆ 概 要
 - 1 開会(榎谷委員長)

それでは、これより第5回小田原城天守閣耐震改修等検討委員会を開催いたします。
 - 2 会議の公開等について(要旨)

榎谷委員長より、今回の会議も公開とすることで説明がなされ、了承された。(傍聴者既入室)
なお、資料1については、議論のためのタタキ台であり、修正が見込まれるため、閲覧のみとされた。
 - 3 資料の確認について
事務局より、資料の確認がなされた。
 - 4 議事(議事進行:榎谷委員長)

事務局より、前回の会議で質問があった内容である資料2及び資料3について説明がなされた。(要旨)

- ・ 増改築、大規模修繕、大規模模様替えを行うと、原則として現行法令が全体に適用される。
- ・ 資料2のP3参照。天守閣は防火区画関係の堅穴区画、避難規定関係の避難階段の設置、2以上の直通階段の設置についてが、現状では対応していない。
- ・ よって、大規模修繕となると既存遡及を対応しなければならず、相当困難であるので、既存遡及にならないような改修とするのが現実的ではないか。
- ・ 既存遡及対応例をP6、P7に記載してあるが、それらを実際に行うとなると、相当大規模工事になってしまうので、そのようにならないようにしなければならない。
- ・ 資料3参照。小田原城において、椅子式階段昇降機の設置自体は可能である。
- ・ しかしながら、小田原城天守閣は1階から2階への上り階段と、2階から1回への下り階段のみが上りと下りが分かれており、それ以外は全て上り下りが共用である。
- ・ その状況において階段昇降機の設置となると、有効幅員が非常に狭くなってしまい、発災時、防災面でも問題があり設置は厳しい。また、運営面では、介助者が必要であったり、一般来場者を止めることも必要になってくる。
- ・ 小倉城の場合は、1階から3階までの全ての階段が上りと下りで分かれており、運用上は支障ないようである。

《質疑応答の要旨》

榎谷委員長 今回の資料に、耐震改修促進法の内容は盛り込まれているか。建築基準法だけの資料か。

事務局 耐震改修促進法については、第3回及び第4回の会議で多少議論されている。また、コンサルタントの基礎調査の報告書には盛り込まれてくる。

小出委員 基本的には大規模改修として扱うには相当な制約があるので、大規模改修には触れない範囲でならでざる、ないしはその範囲でしか出来ないという認識が確認されたということによろしいか。また、実際の計画やプランは先の話だが、建物の外側に階段を出すとなると景観にも影響があるし、いろいろ考えなければならぬことがありそうだということによい。

事務局 そのとおりである。

矢島委員 言わずもがなだが、資料3のP4の図面で、運用時には椅子の前面が70cmしか空かないので、介助者が付くと上り下りとも人を止めざるを得ないのは分かるが、椅子を畳んだときの状況でも、P1の上のタイプでも34cm出っ張り、下のタイプだとさらに出っ張る。階段の残りの幅員は86cmしかない。人間がひとり上るのに、60cmの幅が必要であるので、上りと下りがすれ違えないことになる。現実的に導入できるか。

事務局 現実的には相当難しいと考えている。小倉城の場合は上り下りで階段が2方向に分かれているので対応可能だが、小田原城の場合は1つの階段で上り下りの通

行があるので、入場者が少なければ問題は少ないが、多い日には7000名もの入場があり、安全面の確保ができないと思われる。

鳥居委員 上のタイプだと、レールがつくことにより手すりが使えなくなってしまう。2方向をひとつの階段で対応する施設としては、片方の手すりが使えないということは危険であろう。

事務局 導入するには、階段昇降機で上る間は、他のお客さんを全て止めるような状況にならざるを得ない。

鳥居委員 階段昇降機を設置する際には、手すりを撤去しないといけないだろう。機械を動かさない時であっても片方の手すりがいない状態になってしまうのではないか。また、手すりを撤去しなくとも済むとしても、下にレールがあるとつかまりにくいであろう。

槇谷委員長 手すりがないと、階段は危険である。

小出委員 結局、課題が残る改修しかできないという気がする。根本的に対応をしようとすると、別の方策を考えないといけないという気がしないでもない。とても難しい判断だ。

事務局 その辺りについては、報告書でタタキ台を用意してあるので、後ほどご議論いただきたい。

槇谷委員長 今回の検討委員会では、ある程度方針を決めさせていただき、具体化するのには専門の方に相談しながら市の方で検討すればよいだろう。こういうことが可能だということの提案をさせてもらえればよいだろう。ご意見を承り、それを参考にするとということで望みたい。

槇谷委員長 資料2, 3はハード面に関してだが、ソフト面として、地震時の避難マニュアルを作成していただきたい。東日本大震災で津波が来たが、綿密に市民に伝えている市では被害が少なかった。急に災害が起きて対応するのは難しいので、マニュアルを作ってください、秩序正しい誘導を行い、観光客に被害がないようにしていただきたい。そのような面も耐震改修と同時にお考えいただきたい。私からのお願いである。

(1) 小田原城天守閣耐震改修等検討委員会報告書について

事務局より、資料1のP1～P2「1 検討委員会設置の目的」「2 委員会の委員構成と検討範囲」「3 検討委員会の経過」、P3～P5「4 小田原城天守閣の現状と課題」の前段並びに「(1)-1 平成元年度実施の耐震診断報告及び平成23年度実施の基礎的な耐震診断調査の検討」「(1)-2 耐震補強工法の選定について」について説明がなされた。

- ・ 報告書の全体の構成について説明。この資料はあくまでもタタキ台であり、内容については本日ご議論いただきたい。

《質疑応答の要旨》

- 榎谷委員長
- ・平成元年度に実施した耐震診断結果の表を追記されたい。
 - ・「(1)-2 耐震補強の工法の選定について」中、「剛性を高める工法」を「剛性と強度を高める」とされたい。
- 小出委員
- ・P3 冒頭に「様々な課題がある」「それらの課題を洗い出し、議論を積み重ねた検討結果についてとりまとめた」とあるが、様々な課題が何かがよく分からない。課題一覧表を追加されたい。
- 事務局
- 今までの検討の中にチェック項目もできているので、冒頭に追加する。
- 榎谷委員長
- ・木造での再建を視野に入れないといけないとすると、前提条件をどのように考えるかを入れないと難しい。「暫定的な改修である」とするなどの前提条件が様々なことに関連してくるので、記載されたい。
- 西委員
- ・「4 現状と課題」で様々な課題を書き出す。課題として、①耐震診断・耐震対策、②展示リニューアル計画、③バリアフリー対策、④木造再建の検討 でそれぞれに課題があり、それに対する検討が出てくる。
- (1)-1 でこういうことを検討したということがあり、(1)-2 で工法が突然でてくるが、(1)-1 で「耐震対策をとらないといけないという結果が出た」ということを記載しないとけない。それに対して『「(1)-2 耐震補強の工法の選定」が必要になってくる』という、分かりやすいストーリーでまとめられたい。

(2) 展示リニューアルに関する検討

事務局より、資料1の P5～P6 「(2) 展示リニューアルの検討」について説明がなされた。

《質疑応答の要旨》

- 鳥居委員
- ・「課題」中、「展示映えのする江戸時代に関する資料が少なく」とあるが、「展示テーマとしてこういうことを設定しており、それが不十分である」という内容であれば何を強化しようと考えているのか分かるが、「展示映え」という抽象的な表現では展示リニューアルの方向性が見えてこない。また、現状でも後北条も江戸時代の展示も行っているので、そのことを踏まえた文章にされたい。
 - ・「借用資料が多い」とあるが、天守閣を博物館的施設として考えるならば、博物館の機能として「資料の保存・保管」ということがあるので、「市民の所有する資料を安全に保管する」ということは大きな機能であり、これを課題とするのはいかがなものか。
- 榎谷委員長
- ・リニューアル資料の概算額があるが、金額を出さなくてもよいのではないかと。
- 事務局
- 委員会報告書に入れる必要はないとも思われるので、削除するなど構成を考え直したい。

- 鳥居委員 通常の建築と違い、博物館は既存のものがあまり使えず、オーダーで造る比率が高いので、コストは高くなるものである。
- 矢島委員 京都文化博物館、松江歴史館、仙台市博物館にしても、建物を建てる費用とともに、造作だけでなく内装も含めた費用と思われるので、既存の施設で大きく展示リニューアルができないものであれば、ここまでの費用はかからないだろう。ここに記載された新設のもので費用が示されると、驚くような額になってしまう。
- 鳥居委員 新設館のデータではなく、リニューアルを実施したところであるとよいが、展示内容が違ふと全く費用が違ってくるので、比較は難しい。
- 小出委員
- ・全体的にも言えるのだろうが、現在の天守閣を改修するには、理想的にはいかないということを議論しているので、理想型と現実型を書いて並べてあるだけではなく、理想的にはいかないということを書いた方がよい。
 - ・P6⑥に関して、「天守閣の耐震改修・展示リニューアルにあわせて」というよりは、むしろ「博物館や収蔵庫が足りない」という議論もしてきたので、文章的には逆で、「市の博物館や文化財関連の諸施設の計画をきちんと作り、その中で天守閣の展示リニューアルを考えていくべき」という書きの方がよいのではないか。
- 榎谷委員長
事務局
- あくまでも提言であるので、それでよいのではないか。
- 4章は、現状の課題と検討内容を反映させた形としており、5章で委員会からの提言という形になっているので、全体の構成を変える必要があるのであれば検討させていただく。
- 鳥居委員
- ・P6④の「資料の実物展示は厳選して、現状より減らす」という部分は、まだ具体的なストーリーができていないので、入れない方がよいのではないか。その後の「音声や映像による展示を取り入れる」という部分は入れてもよいであろう。
- 飯沼委員
- ・耐震改修を実施することにより、メリットもあれば若干のデメリットもあるのは分かるが、あまりデメリットの部分を決めつけて書いてしまうのはいかがなものか。考え方を換えれば「同じようにできる」「メリットに変えられる」ということができるのであれば、委員会として断定的なことは書かない方がよいのではないか。
 - ・P5「課題」中の「展示映えのする」という部分の文言は、主観の問題であるので、削除した方がよいのではないか。
- 榎谷委員長
- 恐らく、耐震改修によるデメリットという点、柱の巻きたてが大きくなったり、厚い壁を新設したりすることにより、展示面積が減少されることなどが予測できるが、できるだけデメリットを最小限にする工法も選択できるのではないか。また、補強する柱も全部を補強するのではなく、必要な柱を補強するのであるため、展示スペースとして重要な部分の柱は補強しないなど、できるだけデメリットが少なくなる工法を選択するのも重要なことである。

- 矢島委員
- ・P6③「小田原市のビジターセンターとしての機能やガイダンス機能を取り入れる」とあるが、市全体のガイダンスとして捉えるのか、小田原城を中心としてもののみとして捉えるのかが不明である。表6に、現在の展示で「宿」や「伝統工芸」などは外すものも例示されているが、どちらの考えであるのかが分からないので、書けるのであれば書いた方がよいのではないか。
- 鳥居委員
- ・今までの会議の中で、具体的な展示例は検討していないので、例示だとしても、報告書にP5の第6表はそぐわないのではないか。また、P6③の「小田原市のビジターセンターとしての機能や、ガイダンス機能を取り入れる」という部分と、P5の第6表では、整合が取れていない。
 - ・階段昇降機を設置するという検討がある中で、中4階の特別展示室は通路の幅員が狭く車椅子も通れないような狭い状況であるものを、このまま特別展示室として使い続けるのかという問題もある。ビジターセンターとしての機能をどこに設けるかということや、バリアフリーを考えるのであれば、現在の特別展示室をこのままでよいのかという検討はまだされていない。この報告書が出ると、この委員会でオーソライズされたプランとして受け止められてしまうので問題がある。
- 西委員
- ・第6表は具体的すぎるのではないか。
- 事務局
- 鳥居委員
- 第5表と第6表は、削除の方向で考えたい。
- 今までの議論の中で、消防法などのクリアしないといけない課題の解決が難しいということになると、特別展示室の環境が万全でない施設で、特別展という形で外部の資料を借りて展示してよいものかという問題もある。
- 耐震改修によって、展示面積はどの程度減少するのか。
- 榎谷委員長
- 何%までもいかないくらい、僅かな面積であろう。例えば、柱周りが10~15cmくらい太くなる程度であろう。しかも全部の柱ではない。
- 鳥居委員
- 特別展示室などは、現状でも通路が狭い上に、さらに柱が太くなるとすると、一般の方でも通るのが難しくなってしまうだろう。そうになると、展示スペースとしての使用を諦め、收藏スペースとしてしまうことも考えられるのではないか。
- 事務局
- 中4階が唯一の自由な展示ができる場所なので、できれば残したいという思いもある。
- 鳥居委員
- 今後も特別展示を行うかという判断も必要である。ストーリーに基づいた常設展示を行い、それとは別に、企画ものの、通常行っていない展示をすることを特別展と言うが、それをするかしないかも方向性を考える上で必要である。
- 榎谷委員長
- 先ほどの改修後の面積の話であるが、組み合わせで実施し、強度型で壁に強度を増し、靱性型では例えば柱の回りにカーボンファイバーを巻きつけるだけで済むことも考えられる。そうになると、ほとんど展示面積の減少がなく補強できる可能性もある。いろいろな方法が考えられる。最終的には精密な耐震診断結果によることになる。
- 小出委員
- ・第6表は削除するのか。様々な課題があり、これまでの委員会の議論の中でも、

売店をどうするか、ミュージアムショップ的にするかなどの意見はあったが、それをこのようにしようというという議論はほとんどしていない。その中でこのような表が出てくると、委員の皆さんも全てに引っかかってきてしまうのではないか。削除するのであればこれ以上言う必要はないので、報告書案の出し方には注意されたい。

榎谷委員長 ・展示の具体例を入れる必要はなく、展示リニューアルの方針をしっかりと書けばよいのではないかな。

(3) バリアフリー対応の検討

事務局より、資料1のP7～P8「(3) バリアフリー対応の検討」について説明がなされた。

《質疑応答の要旨》

西委員 この内容だと、「ではどのようにしたらよいか」ということが書かれていない。

小出委員 皆、難しいという感じである。ではどうしたらよいか。事務局としては、やむを得ない、これしかないというのがDタイプであるのか。

事務局 将来の木造再建の可能性を探るという前提があるとすれば、前回の会議で後藤副委員長などからもご発言があったように、当面の安全性の確保として、耐震補強を行い、それ以外の展示リニューアルやバリアフリーなどのについてはなるべくコストを下げて対応するというイメージを持っている。

小出委員 Dタイプであれば、やり易いところはやるが、できないところは人的対応をすればよいということか。

事務局 どうしても安全確保を考えないといけない、また、今後木造再建を研究しながら考えて、必要最小限というキーワードが出ている中で、両方向の通行がありながら手摺りが設置できないことや、ひとりしか行き違えないということからすると安全面の確保ができないこともあり設置は厳しいと考えている。

小出委員 バリアフリーは将来にすることを話されたのでしょうか。お話は分かるが、「継続的に研究しながら、必要最低限で対応したい」ということを書かないと、報告書としてはよくないだろう。

榎谷委員長 委員会の中で、バリアフリーはかなり大きな問題として取り上げられていたので、何らかの将来の方針でも書いた方がよいのではないかな。「今すぐはできないが、将来はこういう方向で考えたい」といったサジェスションでもよいのではないかな。できるところから行っていくということは基本の方針として考えているが、「できるとすれば最小限このようなことができる」という書き方でもよいのではないかな。何らかの形を出さないといけない。

鳥居委員 そうでないとも報告書にならない。この第7表も要らなくなる。

事務局 資料編に入れることになるだろう。検討委員会では、大規模改修、小規模改修、

木造再建の可能性という3本立てで検討してきた中で、木造再建ということが頭出しにしてきたので、議論の過程が変わってきてしまうことにもなってしまいます。

鳥居委員 バリアフリー化は、改修をしたという市民に対するアピールとしても必要ではないか。

槇谷委員長 改修するときにバリアフリーを当然考えるべきと、市民としても思っているであろうから、何らかの対応を考えた方がよい。

西委員 安全の問題は非常に重要であるので、当然検討しないといけない課題である。こういう検討を行ったということをきちんと書かないといけない。第7表はそういう意味で入れてあり、「考えられる手法としてはこういうものがある」「それぞれについてメリット・デメリットをこのように洗い出した」ということを書いておかないといけないのではないかと。次の検討で、「検討したものの、残念なことにそのまま採用できるものは考えにくいので、今後の課題としたい」「今、できることはこういうことである」ということを書かないといけない。検討したという内容を書いておかないといけない。

槇谷委員長 まとめ方の問題である。西委員のご提案のとおりまとめていただくとよいであろう。バリアフリーについては結構時間を費やして検討したものである。その内容を示していただきたい。

鳥居委員 天守閣のような大規模な施設に合うかは分からないが、家庭用のEVのような小型ものでも、車椅子が乗せられるものは設置できないものか。

事務局 EVの設置の検討では、EVを芯に入れるとなると、躯体そのものを大きく変えないといけなくなり、消防法や建築基準法などの全てに抵触してきてしまい、遡及の問題で、現在不適合なものを適合になるように対応しないといけなくなってしまう。小規模なEVであっても、大規模修繕になってしまうということのようである。

槇谷委員長 木造であれば割りと簡単にEVを設置できるが、RC構造の建物だと、床下や梁の一部にも穴を開けないといけなくなることもあるので、構造上の安全性の面でも難しい。場所が難しい。設置場所でよいところが見つければよいのだが。外側にEVを付けるということであれば、構造上の障害は少なくなるが、外観の問題もある。一応はEVを設置することも検討するのもよいであろう。どこかにならないものか。

事務局 相当難しいと考えている。また、委員会の報告の中では、将来の木造再建を前提にすると、コストを抑えるという方向性を出していただいた方がよいという気がする。

小出委員 第7表というのは、下から最上階まで全て行けるようにという考えであろう。2階まで上げよう、3階まで上げよう、4階以降は人的対応で上げよう、という発想があるとすれば、第7表に変更もあるのではないかと。そのようなことも含めて今後検討するという姿勢が必要であり、委員会の検討としては、「そのようなことも含めて検討すべきである」ということでないといけないのではないかと。「諦め

ました」ということはないのではないか。

事務局 そのような方向性でまとめ直したい。

榎谷委員長 私も小出委員と同じことを考えていた。何も1階から4階まで通さなくてもよいのではないか。スペースがあるとすれば、階ごとに変えてもよいのではないか。そうすると、もう少しフレキシビリティがでてくると思われる。

(4) 木造再建の可能性の検討

事務局より、資料1のP9～P12「(4) 木造再建の可能性の検討」について説明がなされた。

《質疑応答の要旨》

事務局（山崎部長） 「(ウ) 木造再建にかかる費用の検討」については、委員会からいただく報告には関係のない部分であるので、第8表も含め、削除したい。費用については、市が実際に復元することになったときに検討する項目であるので、あくまでも参考資料としたい。

小出委員 「木造再建の可能性の検討」というタイトルが問題なのかもしれないが、冒頭に「文化庁の現状変更許可が必要となり」というのが一番最初の文章というのは納得がいかない。木造再建に関しては様々な議論が必要であり、史跡小田原城跡調査・整備委員会で基本構想の見直し等も必要であり、様々な側面があるが、「ここでは、許可基準や現状変更に関連することについて検討する」ということになっていただかないといけない。「木造再建の可能性の検討」は、「木造再建にかかる諸基準」などといった表現にしていだかないといけない。「木造再建の可能性の検討」は、「木造再建にかかる諸基準」などといった表現にしていだかないといけない。この委員会で木造再建の意義などを議論している訳ではないと思う。この内容で、「木造再建の可能性の検討」とされると、委員の方々も耐えられないのではないか。その点は注意をしていただきたい。

榎谷委員長 本委員会でどこまで踏み込んでまとめるかに尽きるだろう。本来のこの委員会の命題は、現在ある天守閣の耐震改修であるので、それに木造での再建という課題があり、ボリュームが大きくなってきたが、木造再建は将来の目標であるので、本委員会で相当大きく扱ってしまうと問題であろう。調査を実施した、本委員会とは別に木造再建のための専門の委員会を設置するべき、という議論もあった訳であるので、現状の天守閣を耐震改修するときに、木造再建と絡めてどう考えればよいかということを取り扱うくらいであろう。それで、もし木造再建がされたとすると無駄になってしまうので、できるだけ最小限の規模にした方がよいという方向性が出たはずだ。今後の問題であるので、行政当局以外の市長の考え方も入ってくると思うが、できるだけ簡単にまとめ、「調査した結果、こういうことが分かりました」というくらいの資料として留めた方がよいのではないか。

西委員 私もそう思う。突然詳しい内容が出てしまったので、これをそのまま報告書と

して入れる必要はないと思う。まずは、「本当に木造で再建をする必要があるのか」「それに対する市の意向や市民の要望をよく検討する必要がある」ということをまずは書くのだと思う。なぜ検討する必要があるかといえば、「耐震改修にも関連するのである」ということだが、そこまでをきちんと書けばよいのではないか。「(ウ) 費用の検討」など細かいところまで突然出てきてしまうとややこしくなってしまう。委員会としては、木造再建についても検討しており、報告書に取り上げて構わないが、根本的な方向をきちんと書いておけばよいであろう。

榎谷委員長 西委員のご指摘のとおりであろう。そのような形でまとめていただきたい。耐震改修の前提条件としては非常に重要な部分であるので、うまくまとめていただきたい。

西委員 前日も話したが、それを課題とするならば、その内容を確認するのではなく、「今後専門の委員会を設置し検討するのが望ましい」と書いておけばよいであろう。

榎谷委員長 そのような形でまとめるのが、本委員会としては適切であろう。現在の天守閣の耐震改修が差し迫っているから、本委員会で方向性をつけようということが命題であるので、そのためのひとつの参考資料というに留めるとよいであろう。

事務局 その点を含めて、「5 検討委員会からの提言」で、書いているので、後ほどご議論いただきたい。

榎谷委員長 ここは前段であるので、「こういう検討を行った」ということに留めておいた方がよいだろう。結論を出す必要はないだろう。

「5 検討委員会からの提言」

事務局より、資料1のP13～P14「5 検討委員会からの提言」について説明がなされた。

《質疑応答の要旨》

鳥居委員 前文の書き方が妙な気がする。①～④までの課題があがっているが、まずは耐震補強を優先すべきだという流れになってきたはずである。次に展示のリニューアルも当然行わないといけない、バリアフリーもできるだけやるべきという、いくつかの優先順位ができたはずである。その流れに沿って書くべきところを、いきなり「木造再建を目指すか否か」というところから始まってしまうと、これまでの議論を踏まえていないと思う。書き方としては、これまでの議論を踏まえた文章にしないとイケない。このままだと、木造再建がテーマという受け止め方をされてしまう。そもそも、耐震改修と木造再建はベクトルが全く違うので、私はそれをこの委員会で一緒に検討するのは無理があるという気がしていた。最後に木造再建について事を入れるという形の方が納まりがよいのではないか。そもそも、木造で再建できる可能性については検討しているが、再建することに対する意義については検討していない。書き込める幅を注意しないとイケない。また、前文で、「コストを抑える」や展示リニューアル計画でも「展示を極力減らす」と書か

れているが、このような議論はしていないと思う。「展示の見直しは必要だ」ということは話したが、減らすということは面積の減少に伴い付随して発生することだと思うが、どのくらい減るかについては具体的な数値はでていない。前段の「4（2）展示リニューアルに関する検討」で、「展示の見直しは必要である」ということも入っていないので気になっている。提言に書かれることは、前の段階で触れていることでない文章として整合がとれないのではないかと。バリアフリーについても、「EVは経費等を総合的に判断すると導入は難しい」「階段昇降機の導入についても課題は多い」となっていると、夢も希望もないということになってしまう。実現できる可能性のあるところは踏まえつつ、きちんと議論した内容を反映した形にしていきたい。（5）その他は、「保存施設や展示施設をきちんと整理しないとイケない」ということを書いてあると思うが、「将来の木造再建を見据えると現天守閣の展示はできなくなる」という表現についてもこれまでの検討内容に添うような表現にしていきたい。

小出委員

木造再建を目指すか否かで対応が変わるという議論や発言はあったと思うが、この間検討を重ねてきた中で、私がそうだと思ったのは、耐震に関しても、展示に関しても、バリアフリーに関しても、今の天守閣ではいずれにしても中途半端であり、完全な計画にはならない、だからこそ考え直さないとイケない。短期的な対応はとるにしても、長期的な対応を別に考えないとイケない、ということではないか、と思うようになってきた。その際に、建て直すということならば、長期的な対応のひとつの案として、木造再建があるのではないかと。この委員会としては、それぞれ取り組むとしても、最後の理想形が、「今の天守閣を相手にはできない」と書くかどうかは別として、「いろいろな意味で可能性を探っていくとイケない」、という感じになるのではないかと。全体の文章が「木造再建にありき」に流れすぎていると思う。検討した内容は、もっと耐震改修問題、展示問題、法規のことも申し上げたのは、完全な対応は無理だということを確認するのが必要だということでも申し上げた。そういうストーリーの方が、委員の皆さんにも納得し易いのではないかと。今後いろいろな場に伝えていく際に、「ここまではできたが、ここからは我々だけではできない」、ということを含めて伝えるのがよいと思った。そのような基調の文章にしていきたい。個々の文章については引っかかることがたくさんある。コストを抑えるというのは目標であるのかがよく分からない。前段③は「必要最低限の改修に留める」でよいのではないかと。きちんとチェックをしていただきたい。

槇谷委員長

まとめ方が難しい。木造再建が前面に出てしまっているのは違うのではないかと。耐震改修ありきで、その次に木造再建が出てくるのであろう。耐震改修したとしても、20年30年経過しもう改修は不可能であり、解体するよりないとなったときに、木造再建となるのだろう。最初に木造再建という話があったので、そちらに流れすぎたところもあるが、将来については、可能性を広く見据えた方がよい。

提言のまとめ方は非常に難しい。次回はそれを踏まえて、最終報告書（案）を

提示していただきたい。

事務局 本日、皆様からのご意見をいただいたので、それを踏まえて早速作り直し、事前にお送りし、やり取りをさせていただいた上で、次回の会議に臨みたい。

榎谷委員長 提言として市長に提出するのは、この委員会で議論したことのまとめであり、具体的にこういうことをすべきというところまででなく、方針程度でよいか。

事務局 基本的には来年度に詳細な耐震診断を実施し、その結果で具体的な工法やどのくらいのボリュームの耐震補強が必要ということになってくる。それが決まらなないと全てがはっきりしてこない。それと、来年度は具体的にはできないが、西委員を中心に木造再建の検討会のようなものやりたいので、一方ではそのようなことを立ち上げていくということになる。今回の提言は、具体的ではなくても、方向性をお示しいただくという事をお願いしたい。

榎谷委員長 そこが非常に重要である。どの当たりまで市に要求されているのかを踏まえてまとめないと、なかなか満足した成果物にならない。その点をしっかり確認した上で、こういう提言にしようということでもとめられる。そうすると、今後の方針、方向性を委員会として打ち出すという形でよいか。

鳥居委員 「提言」の部分であるが、まず、小田原城を耐震改修する意義や必要性を書くべきである。たとえば小田原城天守閣は、市民にとってシンボリックな存在であり、神奈川県西部を訪れる大部分の観光客が訪れる施設である、実際に年間何十万人も訪れている、よって、耐震対策は絶対に必要である。そのような施設であるので、木造の再建も検討する必要もある、というような文章ならば、体裁も整うが、これを見ると、内部の事務的な報告書のような感じがするし、天守閣に対する愛が感じられる文章ではなく、本当に改修が必要があるのかという受け止め方がされないと思う。木造再建についても唐突という感じがする。前の段階で、木造再建を検討する必要性を導くような言葉が入ってこないといけない。

西委員 ストーリーとしては、まず課題を洗い出した、その課題について、ひとつひとつ丁寧に検討したということに進んでいくと思う。何も結果が出てこなかった、分からなかったということではなく、耐震対策をとらないといけないというのは明らかになり、委員会の検討結果として提言に当然入ってくる。どのような工法で行うかということも検討したので、その提言もできる。バリアフリーもやりたいというのは全員の意向であるので、やる必要があるというのは検討結果として出ている。ただし、具体的に何を行うかはできていないので、「次の課題である」と書けばよいだろう。他にも、出てきたことはきちんとまとめるのが提言であるので、何にも分からなかったではなく、提言はできた。検討の中で、木造再建についての意見も出ているので、全く触れないということではないが、すぐに木造にしようというのが第一義ではないので、そのような書き方にすればよい。繰り返しになるが、木造でできるか否かの検討を始めたいと事務局から話が出ているが、報告書の提言に入っていないと恐らくできないので、そのようなことを考えているのであれば、「検討する必要がある」「検討することが望ましい」ということ

が入っている必要があるのではないか。

矢島委員 今お話になったような形で整理していただきたい。この委員会で示されることと、改めて検討を要請すべきところが整理されればよい。

飯沼委員 議論を重ねてきたことをきちんと書いていただければよい。今回の案は、若干トーンが違うので、その点を修正していただければよい。

榎谷委員長 再度事務局でまとめていただき、それを各委員の方々にお送りし、ご意見をいただいたものを反映した内容で、次回の会議で議論していきたい。

5 その他（事務局より）

次回（第6回）の会議日程である4月10日（火）午前が報告書提出前の最後の検討委員会となるので、最終的なご議論をいただきたい。榎谷委員長には、皆様を代表して4月18日（水）に市役所へご足労いただき、市長への報告書の提出をしていただきたい。その際には、プレスリリースも行う予定であるので、ご承知おきいただきたい。

以上